

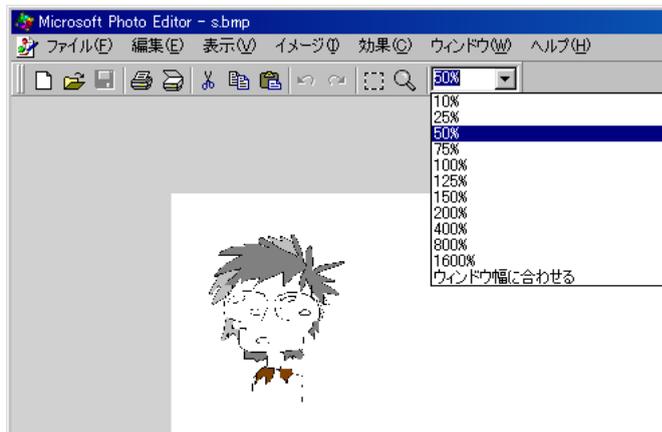
画像ファイルのフォーマット変換

例えばペイントで絵を描いた場合、保存する形式はビットマップ形式となる。このままでは Internet Explorerでは表示されるが Netscape Communicatorでは表示されなくなる。できるだけ多くの人に見てもらうために、これを JPEG 形式に変換する例を以下に示す。

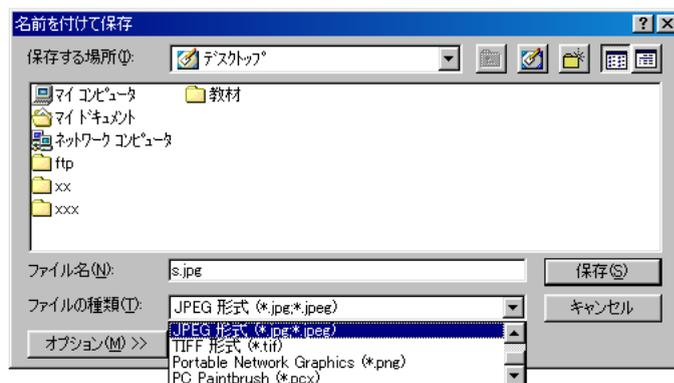
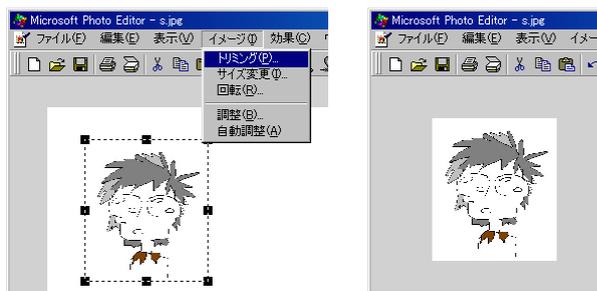
1. まずいったん「ファイル」メニューの保存を実行して保存する。これでビットマップ形式のファイルができる。



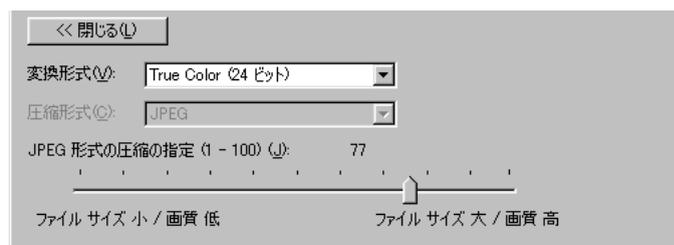
2. 次に Microsoft Photo Editor を起動する。スタートメニューの中、または「共通アプリケーション」フォルダの中にある。
3. 「ファイル」メニューの「開く」を実行し、1. で保存したビットマップファイルを開く。右図のように多少表示倍率が小さめかもしれないので適当な倍率に合わせる。
4. 絵の周囲に不要な余白があるのでまずこれを取り除く。倍率メニューのすぐ横にある「[]」(選択ツール)を選んで、必要な絵の部分を選択する。
5. 続いて「イメージ」メニューの「トリミング」を実行する。一つウィンドウが開いて余白などを聞いてくるが、そのまま「OK」ボタンを押せばよい。これで選択した周囲が切り落とされる。(右図左側がトリミング前、右側がトリミング後)
「イメージ」メニューを利用する代わりに、選択した部分をマウスの右ボタンでクリックしてもよい。



6. 周辺の余白を希望通り除去できたら、「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を実行する。このときファイルの種類として「JPEG 形式」を選択する。



7. この段階で「オプション」ボタンをクリックすることで、右図のような圧縮度の調整が可能になる。左にタブをスライドさせると圧縮がよく効いてファイルサイズが小さくなるが、画像の品質も悪くなる。右にスライドさせておくと、ファイルサイズが大きくなる代わりに画像の品質も上がる。



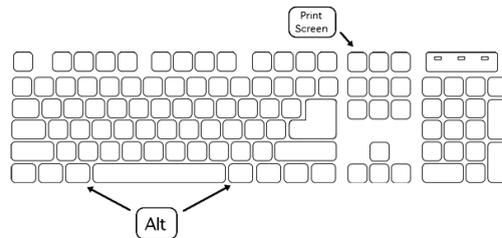
画面に表示されているイメージをそのまま記録する

例えば PowerPoint などで作成した派手な文字などを流用する、というような目的で、今、画面に表示されている絵柄をそのまま画像ファイルにしたいと思うことがあるだろう。それには以下のようにする。

1. 画面上に目的の画像を表示させる。例えば今回は PowerPoint のワードアート (Word Art)機能で作成した少し派手なロゴを取り出す場合について示す。
2. 目的のウィンドウのどこかをクリックし、一番手前にもってくる。(ウィンドウの枠が青色になるように)

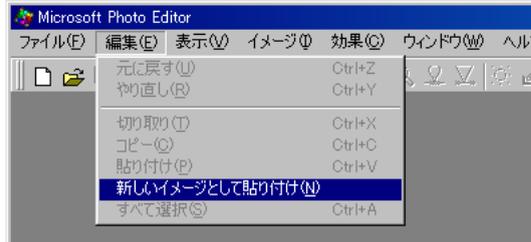


3. 続いて **Alt** **Print Screen** キーを押す。ALT キーはスペース(空白)キーの横、Print Screen キーはカーソル(矢印)キーの上の方にある。これで一番手前のウィンドウの画面表示が一時的に記憶される。



4. 次に Photo Editor を起動し、「編集」メニューの「新しいイメージとして張り付け」を実行する。

これで右下の図のような状態になる。つまり、一番手前に持ってきたウィンドウの画面表示内容がそのまま画像データとして Photo Editor に張り付けられた。



ここから、前のページで示したようなトリミングなどを行ない、下記のように目的の画像だけを切り出せばよい。



これを JPEG ファイルなどとして保存すれば Web などでも利用できるだろう。

